

ヤンゴン素描 49

賢者ヴィドゥーラ本生（ほんじょう）

山形洋一

ミャンマーのお寺に掲げられた絵物語の中に、馬の尻尾につかまって空を飛ぶ気の毒なおじさんの絵を見た覚えはありませんか？実は、お釈迦様の前世を語るジャータカ物語（本生譚、ビルマ語で「ザーツ」）のひとつなのです。

ジャータカ物語は全部で547話あります。一生を20年と短く見積もっても、合わせて1万年以上かけて功德を積み、ようやくブッダになる資格を得られたという訳で、気の遠くなるような話です。

日本には法隆寺の玉虫厨子に「捨身飼虎」図があり、昔話では旅人に食事を与えるために火の中に飛び込んだウサギの話も伝わっています。

ミャンマーで人気が高いのは、今回お話しする空飛ぶ賢者ヴィドゥーラ物語など、ジャータカ物語集の最後にまとめられた10話です。ヴィドゥーラ物語の魅力は、いわゆる「天龍八部衆」の上位半分に当たる天、龍、夜叉、迦楼羅（かるら、ガルータ）が登場する豪華さと、目くるめく場面転換でしょう。

場面ごとにあらすじをまとめてみましょう。

第一場：インド・クル王国コラビヤ王の庭

コラビヤ王が仏教の布薩（ウポーサタ、月6回の禁欲）に励んでいるところに、ここは静かで落ち着けると、竜王、迦楼羅王、帝釈天もやって来て布薩に励んだのは良いのですが、そのうちこの中でだれの布薩が一番厳しく尊いか、議論し始めました。それぞれの言い分を聞いてみましょう。

水天（ヴァルナ、龍族の王）：我ら龍族を食らう憎っくき迦楼羅を前にして怒りを抑えている私の行（ぎょう）こそ、もっとも厳しく、かつ尊いものだ。

迦楼羅（ガルータ）王：大好物の龍族を前にして食欲を抑える私の行の厳しさを知らぬか。

帝釈天（天界の王インドラ）：天上の最高の快樂を捨てて地上にきた私の行に勝るものはない。

人間界の王コラビヤ：わが後宮に侍る一万六千人の美女たちに目もくれず禁欲にふける私の行こそ、最高に尊い。

まるでダボスの温泉保養地に集まった金持ちの自慢合戦みたいで、何が布薩じゃ、と思いたくなりますが、四人はそれぞれ真剣です。この水掛け論に決着をつけようと、コラビヤ王は自分の大臣である賢者ヴィドゥーラを呼びにやりました。

ヴィドゥーラはひととおり皆の言い分を聞き、それぞれご立派で甲乙つけがたい、と引き分けを宣言しました。

考えてみれば、四人がそれぞれ取り組んだ課題は、仏教で「三毒」と呼ばれる貪（とん、むさぼり）・瞋（しん、いかり）・痴（ち、無明）に愛欲を加えた、四つの煩惱にあたります。王者ともなれば煩惱もまたキングサイズというわけですね。

四人の王はこの判定に満足し、賢者にそれぞれ贈り物をしました。ヴァルナ龍王が与えたのは、世界で一番大きな宝珠でした。

第二場：水の底の龍宮

人間界から戻ってきた龍王を見て、王妃ヴィマラーが尋ねます。

「あんた、いつも付けてはるあの石、どないしはったん？」

「それがな、人間世界でこんなことがあったんや。えらい賢い男やで、ヴィドゥーラっちゅう奴は。ほんで、褒美にやってしもた」

聞いた龍女はぜひその賢者に会ってみたいと思いましたが、地上で尊敬を受ける賢者がおいそれと来てくれるとは思えません。一計を案じてつわりを装い、これを治すにはヴィドゥラの心臓を食うしかない、と龍王にうったえます。

「なんで悪阻に賢者の心臓やねん」と龍王は思ったでしょうが、「女の体のことは男はんにはわかりまへん」と言われるに決まっているので、黙っています。龍族の勇者の顔を思い浮かべますが、賢者の心臓を取れそうな者は思い当たりません。悩んでいるところに娘の龍、つまり乙姫様がやって来ました。龍王は、

「そうや娘、お前の色仕掛けで、お母ちゃんのために賢者の心臓を持ってきてくれる男を探してんか。褒美にそいつをお前の婿さんにしたるがな」、と言います。

第三場：カーラギリ

龍王の娘の名はイランダティー。彼女は早速ヒマラヤの麓のカーラギリ（黒山）に行き、森に咲く花を摘んで舞台に敷き詰め、素敵な声で歌いながら色っぽく踊りました。そこに天馬に乗って通りかかったのが、四天王の一人・毘沙門天（別名多聞天）の甥で、夜叉の将軍・ブンナカです。彼は一目でイランダティーに恋をし、ヴィドゥーラの心臓を龍宮に持ってくることを約束します。

第四場：龍宮

イランダティーはブンナカを連れて、父親に引き合わせます。龍王はもしヴィドゥーラの心臓を持ってきたなら、娘を嫁にやろうと、改めてブンナカに宣言します。

第五場：天上、毘沙門天の宮廷

ブンナカはまず天に昇り、伯父である毘沙門天から、持ち場を離れる許可を得ようとしますが、伯父さんは裁判の調停で忙しくて構ってくれない。ブンナカは一計を案じ、裁判に勝ちそうな側の後ろに控えていると、毘沙門天がそちらを向いて、

「お前は行ってよろしい」と言います。

「聞いたやろ。聞いたよな。行ってもええって」

ブンナカはあたりの神々や夜叉を証人に仕立て天界を離れると、まずヴィプッラ山で宝珠を取り、それから地上に向かいます。こうして知恵も勇気も兼ね備えた快男児ブンナカの冒険が始まるのですが、続きは次回といたしましょう。